



ゴマサバ（東シナ海系群）①

ゴマサバはマサバよりも高温域に分布し、本系群はこのうち主に東シナ海に分布する群である。

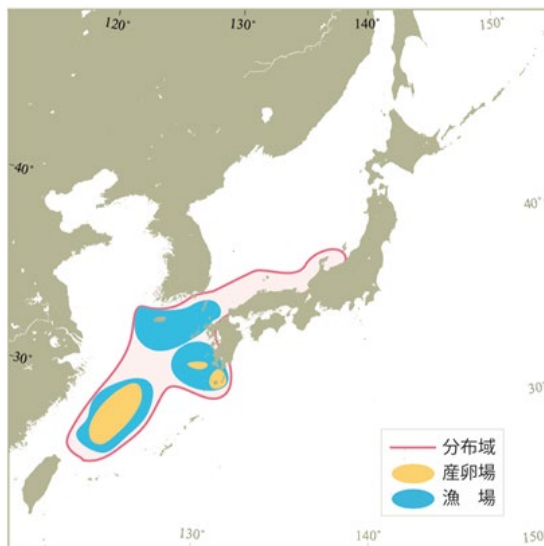


図1 分布図

ゴマサバはマサバに比べて高温（南方）域に分布する。春期には幼魚が九州西岸域～太平洋岸域に出現する。春夏には索餌のために北上回遊し、秋冬には越冬・産卵のため南下回遊する。

産卵場は東シナ海中南部と薩南海域

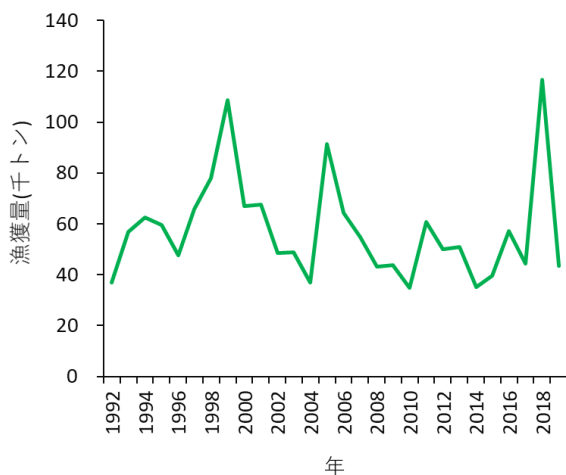


図2 漁獲量の推移

日本と韓国を合わせた漁獲量は、年変動がある。2018年の漁獲量は、11.7万トンであったが、2019年は4.3万トンであった。

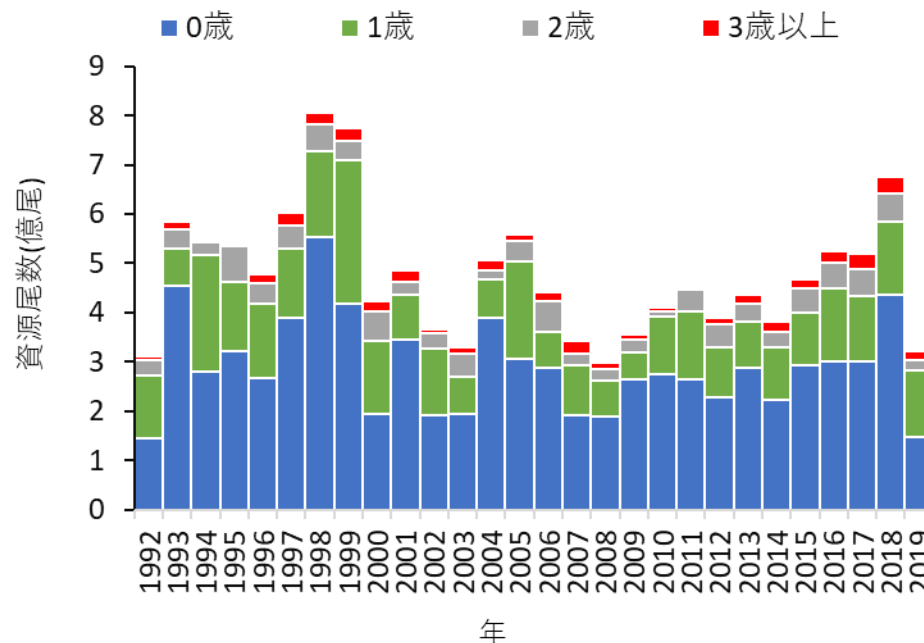


図3 年齢別資源尾数

資源の年齢組成を尾数で見ると、0歳（青）、1歳（緑）を中心に構成されている。

ゴマサバ (東シナ海系群)②

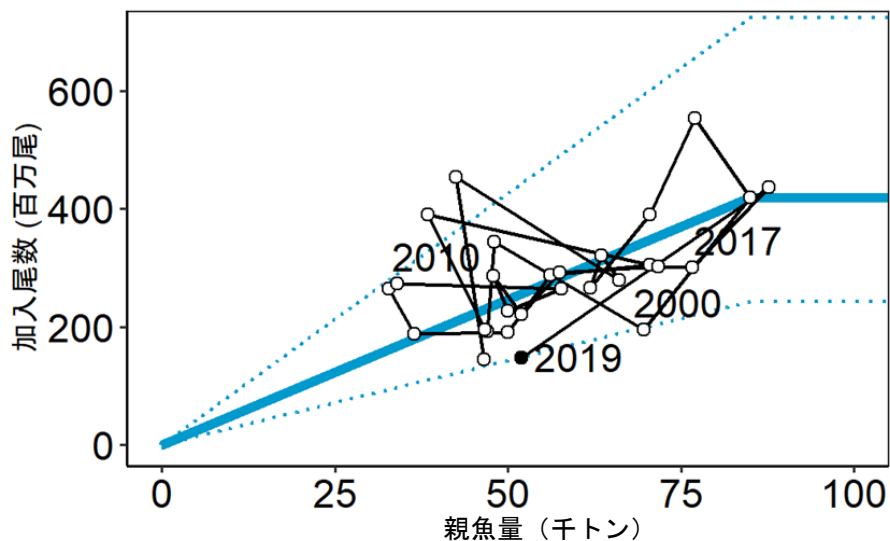


図4 再生産関係

ホッカー・スティック型の再生産関係を適用する。図中の点線は、再生産関係の下で、実際の親魚量と加入量の90%が含まれると推定される範囲である。

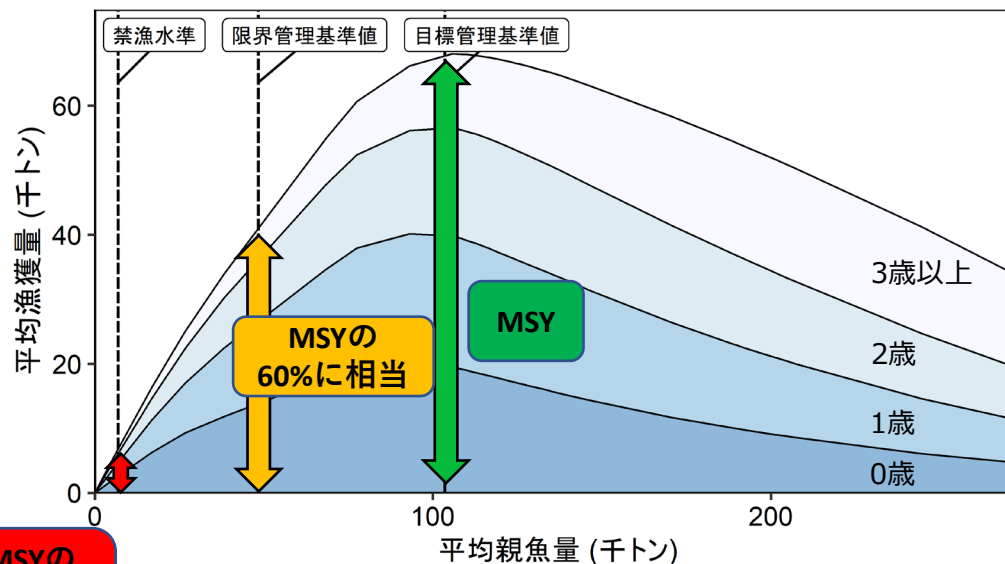


図5 管理基準値と禁漁水準

最大持続生産量 (MSY) を実現する親魚量 (SBmsy) は、ホッカー・スティック型の再生産関係に基づき10.9万トンと算定される。目標管理基準値はSBmsy、限界管理基準値はMSYの60%の漁獲量が得られる親魚量、禁漁水準はMSYの10%の漁獲量が得られる親魚量である。

MSYの
10%に
相当

目標管理基準値	限界管理基準値	禁漁水準	2019年の親魚量	MSY
10.9万トン	5.1万トン	0.8万トン	5.2万トン	7.6万トン

ゴマサバ (東シナ海系群)③

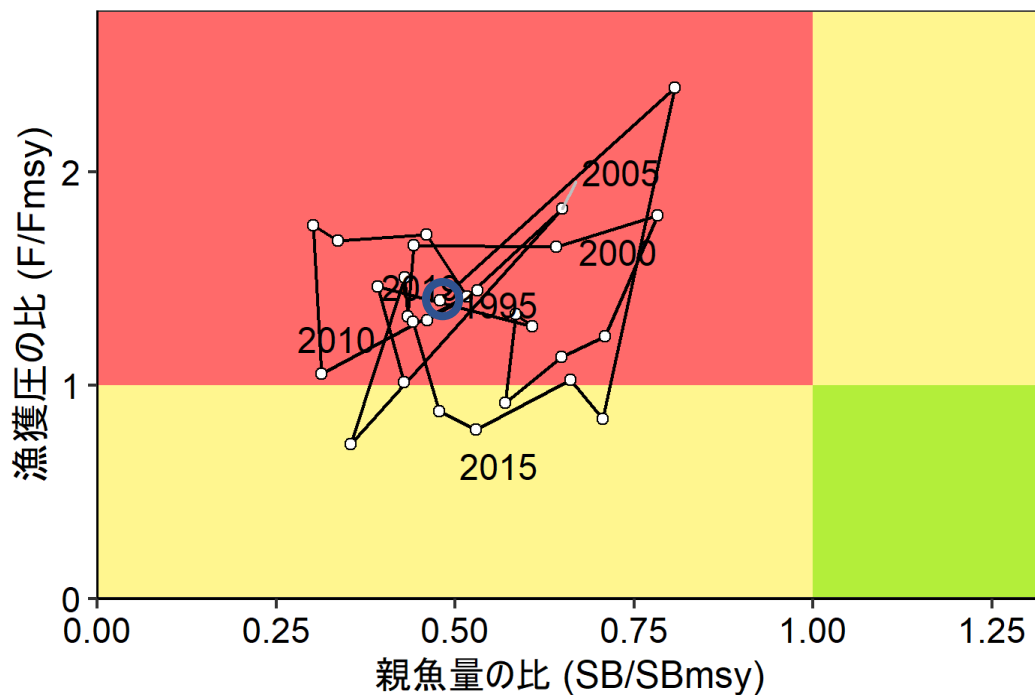


図6 神戸プロット (神戸チャート)

漁獲圧 (F) は1992年以降、多くの年で最大持続生産量を実現する漁獲圧 (Fmsy) を上回っている。親魚量は、全ての年において最大持続生産量を実現する親魚量 (SBmsy) を下回っている。

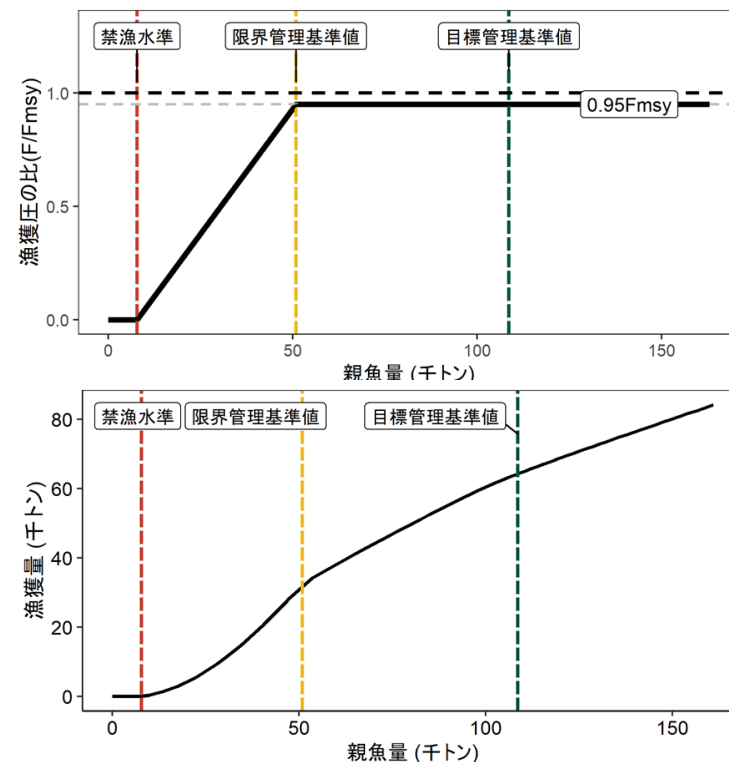


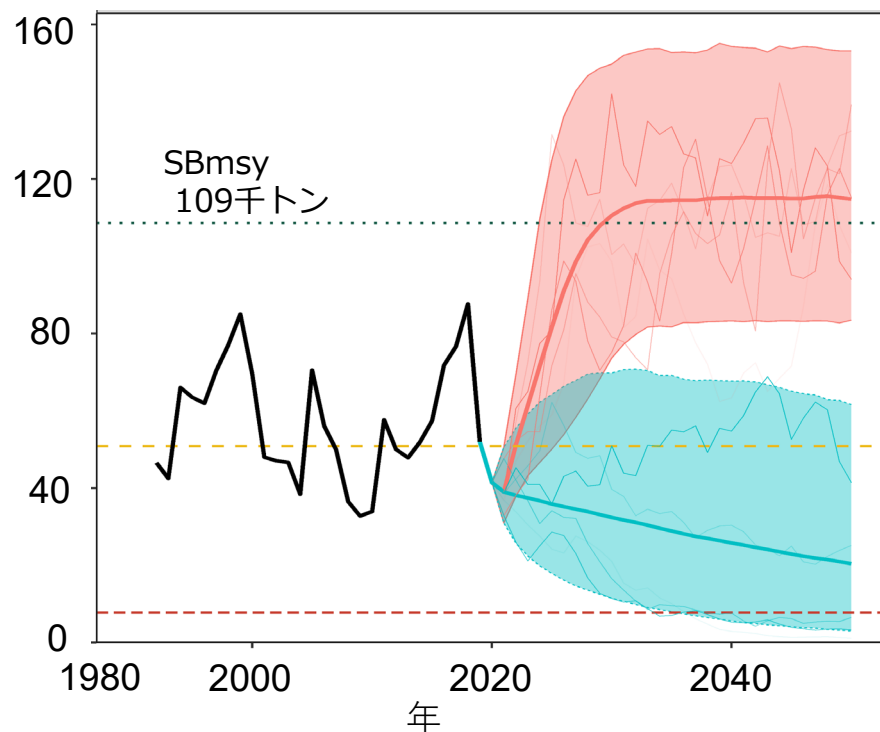
図7 漁獲管理規則 (上図：縦軸は漁獲圧、下図：縦軸は漁獲量)

Fmsyに乗じる安全係数である β を0.95とした場合の漁獲管理規則を黒い太線で示す。下図の漁獲量については、平均的な年齢組成の場合の漁獲量を示した。

※漁獲管理規則については「検討結果の読み方」を参照

ゴマサバ（東シナ海系群）④

将来の親魚量（千トン）



将来の漁獲量（千トン）

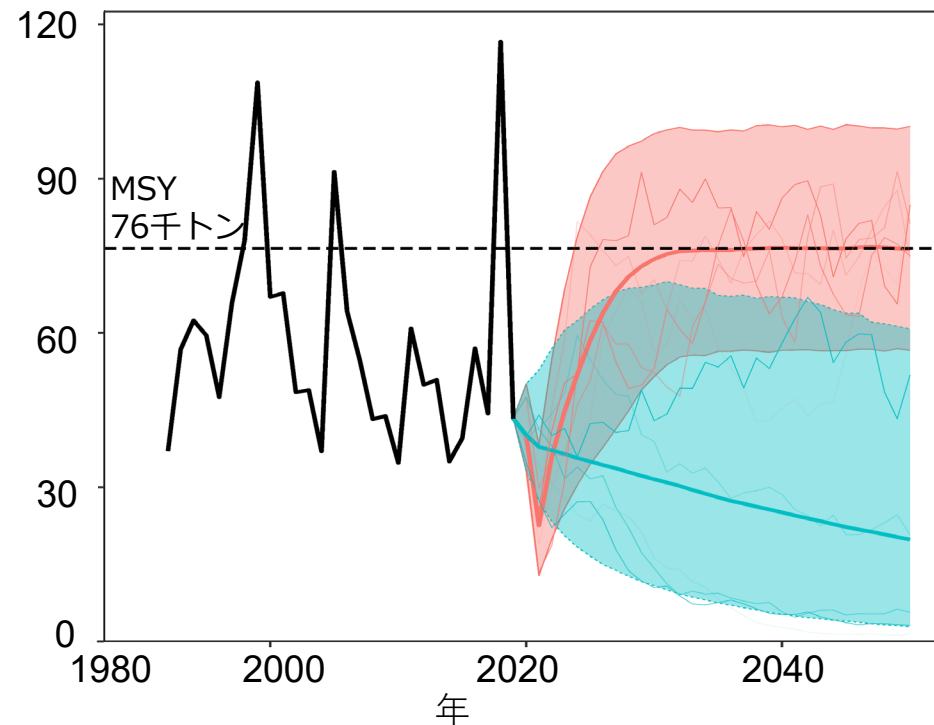


図8 漁獲管理規則の下での親魚量と漁獲量の将来予測（現状の漁獲圧は参考）

β を0.95とした場合の漁獲管理規則に基づく将来予測結果を示す。0.95 F_{msy} での漁獲を継続することにより、漁獲量はMSY付近で、親魚量は目標管理基準値付近で推移する。

- 漁獲管理規則に基づく将来予測
- 現状の漁獲圧に基づく将来予測
- 実線は予測結果の平均値を、網掛けは予測結果の90%が含まれる範囲を示す。
- MSY
- - - 目標管理基準値
- . - . 限界管理基準値
- 禁漁水準

